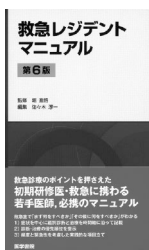


書評

[評者]

松嶋麻子

名古屋市大大学院教授・先進急性期医療学



救急レジデントマニュアル 第6版

堀 進悟 監修

佐々木淳一 編

●B6変型 頁594 2018年5月

定価：本体4,800円＋税

[ISBN978-4-260-03539-2]医学書院刊

約5年ぶりに改訂された『救急レジデントマニュアル 第6版』は第5版より約60ページも多い578ページに救急診療に必要な知識がコンパクトにまとめられています。救急診療に必要な知識は日々増大しており、これを白衣のポケットに入るサイズに収めることは大変なご苦労がおりだったと思いますが、救急の現場を知り、そこに必要なマニュアルとしてまとめてくださった監修の堀進悟先生、編集の佐々木淳一先生の熱意にあらためて感謝いたします。

『救急レジデントマニュアル』は初版より、救急外来診療中に白衣のポケットから取り出して診療を「確認する」ことを目的に作成されています。レジデントから救急科の専門医まで、救急診療を知っている、理解している医師がすぐに見直せるマニュアルとしてどここの救急外来にも必ず1冊は置いてあることでしょう。第6版では、掲載される内容が多くなった分、各項、特に各論の部分についてはさらにコンパクトにエッセンスに絞った記載が行われています。このため、救急診療を学び始めた初期研修医にとっては「なぜ」「どうして」という記載がないため、この本のみを頼りに救急診療を行うことは危険です。初期研修医の方々には成書や自分にとってわかりやすい本で救急患者の「な

ぜ」「どうして」に目を向け、考えるトレーニングを積んだ上で救急診療に向き合っていただきたいと思います。

一方、後期研修医としてある程度、救急外来を任せられる立場になったレジデントの方々、救急科専門医をめざす方々には、救急診療に必要な知識が網羅的にまとめであるこの本が救急外来のお供として必携のものになっているでしょう。重症度・緊急度の判断から救急外来で行う処置、入院・帰宅の判断に至るまで、自信がないときにすぐに確認できる心強い味方です。その中でも特に私が強調したいのは「第1章 救急患者の診療にあたって」です。救急診療はさまざまな背景や問題を抱える患者さんも相手にするため、医学・医療だけでなく、社会的な知識と心構えも必要です。通常の診療と同じように対応しても深夜の来院や酩酊状態の患者さんの対応に思いがけず苦勞することもあります。通常の診療に自信を持ち始め、救急外来を任せられたレジデントの方々には、救急診療に向かう前に、ぜひ、一読されることをお薦めします。救急診療に対する「心構え」を最初に教えてくれるこのマニュアルが、白衣のポケットの中で、いざというときの頼りになることと思います。